

これ何つて聞きましたら大野先生は、笑つてく
なかく云つて下さいませんでした。

小使の小母さんの室のわきに鼠の死んだのが居
たと見えてその日は朝から小さい人達の間で鼠々
といふことを方々で云つて居ました。

その中巖^{イワ}さんが

「交番に持つて行くとお金をくれる」

と云つたのをきいた土方敬太さんが、その死んだ
鼠をまあどうしてさげて行つたことせう一人で行
さつさと裏門から本郷座のそばの交番に持つて行
きました。

おまはりさんはどんな顔してこの可愛いらしい
お使にお話をしたことせう。忠實なおまはりさ
んは鼠をうけとつてさつきの書付を、敬太さんに
渡したのでさつさと幼稚園に歸つて來たのだそう
でございます。

お雛祭り

大阪市露天幼稚園

松川ヨネ

花子さんと千代子さんと敏子さんとは大の仲よ
しでありまして、毎日幼稚園から歸つて参ります
と、いつでも一緒になつて楽しく色々のお遊びを
してゐます。

今日も二人が幼稚園から歸つてから花子さんの
おうちの門口で、ゴム毬をついて遊んでゐますと
急に空の方でブーンといふ大きな音が聞え出して
來ましたので、皆は言ひ合せたやうに毬つく手を
やめて、ちよいと上の方を見ますと、これはどう
した事せう？ それはく美しい蝶型の飛行機
が、二三人のかわゆらしい女の子達を乗せて、
すんぐ下へ下りて來るのです。

花子さんや千代子さんや敏子さんはビツクリし

て「アレツ」「アレツ」「アレツ」と叫びながら手

をうち足をふみならして騒ぎ廻りました。そして

思はず「飛行機萬歳」「飛行機萬歳」「飛行機萬歳」

と言ひますと、その拍子に上からバラバラバラッ

と何か小さなものが落ちて参りましたので、「オヤ

ッ」と叫びながらその方へ急いで駆つて行つて拾

ひ上げて見ますと、それは小さなかわゆらしい桃

のお花でありまして、その中から一通のお手紙が

出てまゐりました。

一同はビツクリしてそれを花子さんのお母様に

讀んでいただきますと。

明日は三月三日のおひなまつりの日です。私達

の世界では明日午後一時からおひなまつりをして

お遊びを致しますから皆様どうかお遊びにお越し

下さい

三月二日

天國より

下界のおとめ子様達へ

と書いてありました。

これを聞いた三人は大喜びで、「あゝうれしいな

〜」「私早く天國へ行きたいわ」「あゝうれしいな

〜」と、皆が小躍りをして喜びました。

すると花子さんのお母様が「ホ……………ッ」と

お笑ひになりまして「皆さんどうして天國へいら

つしやるの」と言はれて一同「ハッ」と思つて互

ひに顔と顔とを見合せてだまりこんでしまひまし

た。

然し又やゝしばらくすると花子さんが「でも私

行きたいわ〜」と言ひ出しましたので、皆も同

じやうに「全くね」「行きたいね」「行きたいわ」

と、又々わい〜騒ぎ出しました。

すると今迄花子さんのおそばで黙つて聞いてゐ

ましたゴム毬が、コロコロコロッと皆の前へころ

げ出て「皆様そのお役は私が致しませう」と申し

ましたから、一同は餘りの意外さに「えッ！ 毬子さん、あなたが私達をあの天國へ連れて行つて下さるの」「ありがたう」「でも大丈夫？」「ほんとうなの」とかわる／＼皆が尋ねますのでゴム毬は「ええ御心配は御無用でございませう」と全く眞顔になつて申しますから皆もそれでやつと安心をして「それぢやお願ひ申しますね毬子さん」「どうぞよろしくね毬子さん」と、その日はそれで皆が別れ自分／＼のおうちへ歸つてしまひました。

翌朝になりますと三人は早くから目をさまして急いで床の中から飛び出して早くから花子さんのおうちへ集つて大騒ぎです。

するとおひる前頃になつてゴム毬が「ぢや皆さんこれからそろ／＼出掛けませうか」といふなりすぐに一つ大きな息を吸ひこみましたので、見る／＼うちにゴム毬は大きくなつて「さあ皆さんど

うか私のおせなにのつて下さい、そしておつこらないやうにしつかりと私のおせなにつかまつてゐて下さいよ」と申しますから三人はうれしいやらおそろしいやらでビク／＼しながらとう／＼ゴム毬のおせなの上に參りました。

そしてお父様方やお母様方に「さようなら」「さようなら」とごあいさつを致しますとゴム毬は、大きなお腹に力を一ぱいこめて「一、二、三」とかけ聲勇ましくボンと強く地上を一蹴りけりたてましたので、三人は餘りの大音と大響にビツクリして「アッ」と叫んで目をつぶつてゴム毬のおせなにしがみついたきり、そのあとは全く何も知りませんでした。

するとふと耳もとで「皆様よくいらつしやいました。さあどうぞこちらへ」といふやさしい聲が致しますのでビツクリ目を開いて見ますと、そこにはかわゆらしい黄色の蝶が三人を出迎へてゐて

くれましたので、皆はうれしいやらありがたいやらで、全く夢心地のままで蝶の後からついて参りますと、それはきれいな〜広いお庭へ出てまゐりました。

そこには美しいお花やおいしさうな木の實がたくさんになつてゐまして、小鳥は楽しさうにチチチチと囀りながら飛び廻つてゐました。

するとどこからか一人のかわゆらしいあまつおとめが出て参りまして、「さあ皆様どうぞこちらへ」と申しますから三人はたゞ「ハッ」と答へたままでおツゞしながらついて参りますとやがて立派な御殿がありまして三人はその大奥へと案内をされました。

するとどこからともなくよい音楽が高く低く弱く強くゆるくせわしく流れきこえてきますので、三人はとうとうその妙なる音楽に酔はされてしまひまして、ふと氣がつかしました時には美しい桃園

の真中に立つてゐました。

美しい緋のまん暮は庭園の四方に張りめぐらされてありまして、その正面には大きな立派な舞臺が出来てありました。

観覽席は早や來客で満員の有様でありましたので三人はいそいでその隅の方の席につきました。

すると間もなく柏手と共に薄紅の美しい薄絹の幕が静かに開かれました、美しいお姫様がその正面にニコとして座つていらつしやいましたから觀衆は一時にドツと柏手をして喜びますと、お姫様は静にお立ちになつて、今日のおひな祭りについてのごあいさつをなさいました。そして大變御満足げに見えました。

それから次第〜に色々の面白い餘興が始まり出しましたので一同は我を忘れてやんやんとはやしたてました。

お雛祭りのプログラム

一、開會の辭 お姫様

二、餘興

- (1) 胡蝶のダンス
- (2) 天女の舞
- (3) 小鳥の舞踊
- (4) お客様の飛び入り隨意
- (5) 福引

三、宴遊會

- (1) 茶話會
- (2) 模擬店
- (3) 紀念撮影

四、閉會 以上

面白かつた餘興が一段落をつげますとこんどは
廣いお庭で立派な宴會がありました。

皆は珍しい天國の御馳走に舌鼓をうつて色々の
おみやげをたくさん頂戴いたしました。

- (1) 桃の花のお餅

(2) 桃の葉の卷ずし

(3) 蜜のお酒

そして夕方頃に皆はそれぐく胡蝶のおせなにの
せてもらつて天國を辭しました。

「お姫様ありがたうございました」「さようなら」
「さようなら」「ごきげんよう」「また來年もいら
つしやいよ」「さようなら」と。

名残りの聲が次第に遠く弱くかすかになつたか
と思ふ間に早や花子さんも千代子さんも敏子さん
もそれぐく自分のおうちの前へ送られてゐました
とさ。(終り)